

# 3/ 20 (木)

## 主の用なり

もし、誰かが、「なぜほどくのか」と尋ねたら、「主がお入り用なのです」と言いなさい。(31)

ルカによる福音書一九章28〜40節

イエスはエルサレム入城に際し、ろばの子に乗ろうとされました。その準備のために二人の弟子を隣の村に遣わしました。彼らがつながれているろばの子を解こうとすると、持ち主が「なぜほどくのか」と尋ねました。弟子たちが主に教えられた通りに「主がお入り用なのです」と答えると、持ち主は連れていくのを許してくれました。この持ち主は、主イエスのために自分の大切な家畜を喜んで提供する人でした。それは主の用ならば自分自身をも献げようという信仰の表れでした。主イエスをお乗せするろばの子の姿は、こんな私をも主は必要としていてくださると喜ぶこの持ち主の姿でした。ろばの子に目を留め、その持ち主に目を留めた主イエスは、私たち一人一人をもご覧になつて、「主がお入り用なのです」と声をかけてくださいます。主をお乗せするとは、何という光栄でしょうか。